

横浜市大新聞

2005(平成17)年5月9日(月曜日) 第278号(1950年創刊)
 横浜市立大学新聞会発行 無料配布
 〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学金沢八景キャンパス
 発行人兼編集人: 福本元
 メールアドレス ycu_press@yahoo.co.jp
 ニュースブログ http://blog.livedoor.jp/ycu_press/

期待と不安の新大始まる

「国際総合科学部」初の入学式

恒例の新歓 オリエンテーション



【写真上=英語であいさつするストロナク新学長、手前は来賓席】
 【写真左=にぎわういちょう並木、掲示板横の桜は、3分程度の開花にとどまった】



4月5日10時から、本学金沢八景キャンパスの総合体育館で、「公立大学法人 横浜市立大学」の平成17年度入学式が開催された。入学者数は、新しく誕生した国際総合科学部が758人、看護学科が設置された医学部139人の計897人と、大学院の261人。【細】宝田良一理事長は「教育に重点を置き、実践的な教養大学を目指している。英語を軸として、国際的な人脈を構築できるようにしたい」と新しい横浜市立大学の方向を説明。ブルース・ストロナク新学長は「私と学生のみなさんが自由に話し合える場を作りたい」と述べ、後半は英語で式辞を述べた。「英語は大事。今はわからなくても、(入学生は)卒業する頃にはわかるようになるはず」。

と述べ、後半は英語で式辞を述べた。「英語は大事。今はわからなくても、(入学生は)卒業する頃にはわかるようになるはず」。

■市長「市民の税金」強調

中田宏市長は来賓あいさつで「これからは、それぞれに幸福感、価値観を温めなければならない。新しい大学ではこれまでの伝統の上に新たな価値を作る。市長として、大学の中身に口を出したことは一度もない」と述べた上で、昨年の浜大祭での講演と同様に「八割は市民の税金でまかなっている大学だということを入れてほしい」と強調した。

式の開始時、国際総合科学部の新入生の座席が足りないトラブルがあり、職員等が数十人分を追加で運んだ。また、来賓席には昨年度いっぱい学長を解任された小川恵一氏の姿もあった。

式の終了後12時過ぎからは、いちょう並木で毎年恒例の学内サークル・部活動の勧誘が行われた。昨年よりもゆっくりと新入生が会場から退出したため、勧誘は14時頃まで行われた。

■新入生「TOEFL不安」

「にぎやかだという印象を受けた。大学改革については、理系でも文系に進める、という程度しか分からない。まずは、遊びたい」(国際総合科学部理化学系・男・横浜出身)

「友達をつくりたい。TOEFLはリスニング対策を何もやっていないので不安だ。思ったより茶髪の少ない大学だと思う」(同国際教養学系・男・静岡出身)

「いながらしさが落ち着けるのでいい。授業や進級が不安だ。サークルは決めていないが、運動系を考えている。まずはバイトをしたい」(同経営科学系・女・新潟出身)

学生生協委員会は、3月28日、31日、4月3日の3回にわたって、毎年恒例の新入生歓迎オリエンテーションを開催した。最終日は、それぞれ100人程度だった前の2回を大幅に上回る300人以上の新入生が参加した。新入生たちは、まずシーガルセンター1階の食堂で、学科・学系ごとに分かれて在校生から大学生活についての説明を受けた。机に新入生がやってくるたびに拍手で迎えるところや、立ち上がって自己紹介をしてゆくブースもあった。在校生は部活や飲み会、授業内容などについて説明し、終始和やかな雰囲気だった。

新入生には500円分の食券が配られており、食事の後は自己診断ゲームも用意されていた。さらに、班ごとに別れて学内を巡り、各所に張られた「ライブドアの社長のフルネームは？」などといったユニークな問題を解くクイズもあった。

学生生協委員会の担当者は「新入生のみなさんが友達を作ってくれているようなのでよかった。この企画を通じて、大学生活を始めやすくしてもらえとうれしい」と話している。

【写真=多くの新入生が参加した最終日】



横市オケ・若手音楽家 コンチェルト 管弦楽団

独立法人化後、地域社会に積極的に貢献していくことが求められている本学。そんな中、横市管弦楽団が今年8月に企画しているのが、「横浜が生んだ若手音楽家デビューコンサート ～のぞいてみよう音の万華響～」だ。この企画は横市管弦楽団が横浜市を拠点として活動する若手音楽家を募集し、コンチェルト(ソリストの演奏にオーケストラがつく形態)を組むというもの。素晴らしい才能に恵まれても個人の力だけで演奏会を開くのは難しいため、音楽家の卵は日の目を見ずに埋もれがちであることが多いのが実状だ

という。そこで、プロを目指す若手音楽家と、彼らから斬新な刺激を得たいと考えた横市管弦楽団のニーズが一致し実現したのが今回の企画だ。

指揮者は山田和樹氏(01年東京藝大指揮科を卒業、現在TOMATOフィルム音楽監督、東京混声合唱団客演指導者)。応募から選ばれた6名の平均年齢は22歳。パートはピアノ、チューバ、声楽、オンド・マルトノ、サクソ、バイオリン。

楽団員の女性は「はじめての試みで私たち自身も模索しながらの段階だが、みなさんにいい音楽を届けられるのがんばりたい」と語った。場所は県立音楽堂(JR桜木町駅徒歩10分)8月19日18:30開演。問い合わせ先は080-6184-2747(担当:後藤)【福】

院生の紀要めぐり混乱

大学院生の紀要発行について修士、博士課程生が混乱している。毎年2月上旬には担当教員より配布されるはずの紀要論集要項がまだ配布されていないためだ。

現状では紀要について教員サイドの担当者は実質一人だが、この教員は「担当教員は事務から紀要についての連絡を受けていないため、院生に伝えられない状況にある。毎年、本学の事務局職員から紀要委員へ詳細が伝えられることになっていた」という。しか

し今年3月に担当の事務職員が退職。引き継ぐ職員がおらず「紀要問題は棚上げ状態になっている」とのことだ。

一部懸念する院生からは「このまま紀要はなくなるのではないか」との声も出ているが、前出の教員は「紀要の運営の主体がどこにあるか分からない状態」と語る。国際文化博士課程の院生は「紀要は院生の名刺代わり。無くなると困る」と述べた。【福】

新学長、学生組織と会談

3月23日、学生組織のメンバー4人が新学長に内定しているブルース・ストロナク参与と会談した。この組織は、本学の改革に学生の立場から提言しようと、先月有志の学生によって設立された「Network of OutBurst (NOB)」。

ストロナク参与との意見交換の会談は2回目になる。NOB側は今後の計画として、まず教員・事務・学生の三者での話し合いを提案した。ストロナク参与は前段階で準備を進める必要があるとした。

会談は本校舎2階の参与室で約一時間行われた。NOB代表の富樫耕介さんは「可能かどうかは分からないが、(新入生を迎える)4月中に教員、事務、学生の三者が参加する話し合いの場を設けたい」と提案した。ストロナク参与は「意見を出して議論することは

重要だが、その前の段階としてコミュニケーションができる環境を作る必要がある。私や学生、教員などと案を作り、事務に提出したい」と述べた。

NOBは今後、在学生からメンバーを集めて全学的な組織とすることを予定している。しかし設立から一か月しか経っておらず、学生の認知度は低いという。富樫さんは「土台がないため、時間的にも限られている。オフィシャルな組織として、他の学生たちの意見を客観的に吸収できるよう、4月までに自分達のツールを提示できるようにしたい」と、NOBが新年度へ向けての準備を進める考えを述べた。これに対してストロナク参与は「急いで考えるのではなく、10年後、20年後を考慮することが大切だ」と慎重な姿勢を示した。

学生と「昼食」も

ブルース・ストロナク学長は4月20日、昼休みにシーガル食堂奥の「ゲストルーム」で学生を相手に昼食会を行った。事前の告知がされていなかったため、多くの学生は突然の学長登場に驚いていた。

昼食会は学生有志組織のNOBが学長に「学生の声を聞く場をつくってほしい」と要望した際、学長側が開催を提案したもの。昼休みの時間を通して行われ、部活動や地域の話で盛り上がっていた。

学長と話した学生からは「こういう場は非常にいいので、毎週開いてはどうか。自分の所属する部のイベントに、大学としてバックアップしてもらえようお願いします」と好評。しかし別の大学院生からは「アナウンス不足なのは。(多くの学生は)ここがどんな場なのか理解していない」と厳しい指摘もあった。昼食会の情報は、個人的な伝達にとどまっていた。【細】



【写真上=3月23日、学長と会談するNOB】

チェチェン紛争の講演企画

学生有志組織のNOBは、5月27日(金曜日)にチェチェン紛争に関するイベント「チェチェンで何が起きているのか」と題するイベントを開催する。ビデオ上映などのほか、ジャーナリストの林克明氏を招いての講演会を予定しているという。

場所は金沢八景キャンパスのいちじょうの館。17時受付開始、17時半開演で20時までの予定。参加費は500円。

NOB ウェブサイトは http://www.geocities.jp/nob_scyuu/

おきらくゴソタの就職活動談話

P. N 肉離れで続行不可能

3年の学年末の試験を乗り越え、私の本格的な就活はスタートした。説明会や面接でほぼ毎日東京通い。朝の通勤ラッシュに飲み込まれ、人の波に流されるまま会場に向かう。街にはリクルートスーツの女の子があふれ、どこか癒されるという自分と同じようにがんばっているのだと実感し勇気もらえるような気がした。

団塊の世代の退職で新卒採用は増加傾向となり、就職氷河期と呼ばれた時代よりは厳しさも少しやわらいできたとはいえ、その即戦力となるような若い力を求める傾向が強くなった。もちろん社会経験の少ない学生に高度な知識を求めることはできないが、仕事をしていく上で何よりも重要なコミュニケーション能力がある程度備わっているか、という点がかかり重要視されているように思う。コミュニケーション能力といってもさまざまな捉え方があるかもしれないが、私が思うに、相手がどのように考え何を伝えたいのか、もしくは何をを知りたいのかという相手との意思疎通がうまくできるかという点ではないか。ゲームやインターネットの普及で人との直接的なつながりが少なくなってきたといわれる時代だが、このことがコミュニケーション能力の低下を招いているのではないかとふと思う。

しかし、最近の就活はかなり楽になったものだ。昔のことを知っているわけではないが、ほとんどの場合企業検索からエントリー、説明会の予約までネットで一発である。会社の情報もネットで得ることができる。10年前ぐらいは大量に郵送されてくるダイレクトメールなどから情報を得たりしなければならなかったらしい。それを考えると私たちは恵まれている。しかし、すべての情報が真実とも限らない。自分にとってためになる情報を取捨選択する能力も必要になる。いまや生活必需品となった携帯電話は就活でも必須だ。どの場所においても企業からの連絡を受けることができるし、電車の時刻も調べることができる。何はともあれ文明の進化はすごいものである。

就活は自分の進路を決定するというと同時に、自分の本当の姿はどういうものなのかを見つめなおす数少ないチャンスである。自己分析をしながら今まで自分が歩んできた人生を振り返ってみたが、このようなことは就活をしない限りそんなにできないことではないだろうか。人生で一回しかない新卒での就職活動を納得いくものにするためにも、自己分析から自分の適性をしっかりと見極め、あふれる情報に流されずにやっていくことが重要であると実感した。

学生中央委復活 委員長に聞く

本学の学部生の自治組織をまとめる学生自治中央委員会。近年は学内団体への予算配分のみで機能してきたが、今年に入り、学生生活に幅広く関わる組織としての「立て直し」の動きが活発化している。1992年以降の同委員会の規約改定も準備されている。1月に選出された早川有香委員長(国際文化学部4年)に、今後の計画などについてインタビューした。

【写真=4月15日、インタビューに応じる早川委員長】



規約改定、ウェブ開設も

——就任して、思うことは。
「全体像を把握することに責任を感じている。学生が中央委員会の存在を認知していない状況が続いていたので、存在を示したい。まず、中の組織を今年のうち固めたい」

——規約の改定はどのように行うのか。
「役職など、中央委員会の現状が規約と異なっているので、現状に合った有効なものにしていく。中央委員会の中に規約改定委員を設置し、毎月1回の会合で検討する予定だ」

——今後、どんな活動を予定しているのか。
「浜大祭へ出店し学生にアピールしたい。また来年2月にはスポーツ大会のような、学生団体同士の交流イベントを予定している。5月までに中央委員会のウェブサイトを完成させたい」

——大学改革などで影響はあるのか。
「入学者数は増えたので(学生団体の予算は)財政難とは聞いていない。特に大きな問題はないが、現在、サークル棟は、運送は定期的な清掃を行っているが、文化部は行っていないので2月に文連へ指導した。キャリア支援センター(旧学務課)との関係は密にしていく」

——新入生に対しては。
「大学は勉強第一だが、部活・ボランティアなど、プラスアルファの部分も充実させてほしい。いろんなことに挑戦してほしい」

【細】

6月5日に対首都大

定期対抗戦、本学で開催

運動部連合による首都大学東京との定期対抗戦が、6月5日(日曜日)に開催される。今年は横浜市立大学と同様に新大学がスタートし、東京都立大学から名称を変更した首都大。23回目を迎える今回の定期戦は、本学をホーム校に行われる。

参加予定団体は、準硬式野球部、軟式野球部、ラグビー部、卓球部、空手道部、合気道部、テコンドー部、男女バスケットボール部など。この日以外にも参加する部もあるという。運動部連合会は、一般の学生もどんどん試合を見に来てほしいとのことだ。【運動部連合提供】

記者募集

本紙編集部では記者を募集しています。活動内容はイベント・部活動・サークル・大学改革などの取材、インタビューと記事執筆、編集発行全般です。未経験の方からマスコミ志望の方まで歓迎します。詳しくは yacu_press@yahoo.co.jp までお問い合わせください。

創刊1950年 信頼と実績の

横浜市立大学新聞会

◆中央委員会とは

運動部連合・文化部連合・学祭実行委員会・新聞会などからの委員で構成される。自治会を統括する委員会として1962年の規約に定められているが、自治会が消滅した現在では学生団体への予算配分が主な活動となっている。規約は1992年に改定されているものの、旧「文理学部自治会」をふくむなど、実際には機能していなかった。

3月・4月のこの他の主なニュース(詳しくはブログ版をご覧ください)

- ・神奈川新聞が社説で本学を論評「行政サイドとのパイプ役を」
- ・松浦 CEO(現副理事長) 次回の入試が低倍率なら「私が責任」と発言

横浜市立大学関係の最新情報は本紙ウェブログで!! 一部携帯電話からもご覧いただけます。

http://blog.livedoor.jp/yacu_press/